

2024年10月 浜松聖書集会のご案内

(時間: 午前10時 ~ 正午)

- 10月 6日 (日) 集会 (アクト研修交流センター 36セミナー室)
司会: 大手 美千代 感話: 溝口 春江
聖書講話: ミカ書 5章 1~5節
「終わりの日の約束その2—平和の君の誕生」 水戸 潔
 - 10月13日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)
司会: 生江 扶左子
聖書講話: ヨハネの黙示録 14章6~19節
「刈り入れの時」 武井 陽一
 - 10月20日 (日) 静岡県下無教会同集会 (清水・西澤宅) 10時半~13時
司会: 武井 陽一 浜松駅 8時37分発 清水10時3分着
聖書講話: マタイによる福音書 26章52節
「歴史と平和」 小田 弘平
 - 10月27日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)
司会: 永井 徹
聖書講話: ヨシュア記 7章
「アカンの罪と集合人格」 笹井 あかね
- 「みぎわ64号」は10月31日に発行予定です。用いられますようにお祈りください。
○ 10月20日 県下合同集会に参加希望者は武井までお知らせください。

救いは恩恵のみによる

溝口 正

信仰のみによって救われるというルターの宗教改革は、カトリックの律法主義・形式主義の束縛から、人間を救い出してイエス・キリストに在る真の自由を回復するための貴重な真理であるが、しかしこの場合でも信仰は神からの恩恵であることを忘れてはならない。

私の言いたいことは、世には信ずる能力さえ与えられていないと思われる様な人々が大勢いるということである。重症の精神病患者や精神薄弱者などは、ルターの『信仰のみ』によっては、到底救われまいであろう。イエスはベテスダの池のそばで、治る望みもつき果て絶望的になっていた信仰のない重病人を憐れんで、自らの手をのべて直し給うた。「神様」とも言うことが出来ず、「イエス様」の名前さえ覚えることのできない身体的精神的に重荷を負わされた人々に対しては、信仰さえも要求し給わず、いの一番にお救い下さるにちがいない。否、現に救われていると考えてよかろうと思う。あの信頼し切った平安そのものの顔が何よりも証拠ではなかろうか。…私もこのような方々の世話を十余年続けさせていただいているうちに、救いは信仰のみによるのではなく、神の恩恵のみによることを、次第にわからせてもらったように思う。このことは信仰の無用を主張するものではなく、信仰も神からの恩恵であることを感謝するものである。信仰は私の「手柄」ではなく、神からの最上の「贈りもの」である。救いは恩恵のみによるというのが、今日の私の結論である。

1962年2月「復活」墨字版3号